



日本では刺身を食べることは、普通のこと。カポエイラを通して、文化を分かち合いたい。

プロフィール

1976年生まれ。17歳の時、来日。10年間工場で働く。21歳の時、ビデオで見たブラジルの伝統的な格闘技ダンス「カポエイラ」に興味を持ち、独学でトレーニングを始める。その後一時帰国してカポエイラの学校で勉強、再来日してカポエイラの教室を始める。

ために先生が日本に来てくれました。

ブラジルの人にとって、カポエイラは国を代表するスポーツなのですか？

はい、そうです。もっとも一番人気があるのはサッカーです。でもチームは強いけれど、サッカーはイギリスで始まったスポーツですよ。カポエイラは、日本の相撲や空手と同じような感じです。ただ、国の偉い人たちがそれを大事にしていないんです。カポエイラはもともと、アフリカから奴隷として連れて来られた人たちが、虐待から身を守るために考え出したものと言われています。だから、最初は禁じられていたくらいだったんですよ。それが後になって見直され、ブラジルの伝統的なスポーツとして伝えられてきたのですが、それでも少し前までは屋外でやってはいけなかったんです。

カポエイラを通して伝えたいことは？

やはり、お互いを知り、いろんな人と分かち合いをして欲しいと思うんです。

ブラジル人も、日本のことをよく知らないまま日本に来て「刺身を食べるなんて信じられない」とか「気持ち悪い」とか言うことがあります。それはこの国の人にとって普通のことです。それを分けることが大切です。また、日本人の方でも私たちを見て、分かってほしいというところもありますね。ブラジル人はおしゃべりが大好きで、声大きいんですよ。でもブラジルではそれが普通です。お互いに「気持ち悪い」「迷惑だ」というのではなく、相手を知って分かり合うことが大事だと思います。カポエイラを通して、それができたらと考えています。



これからの夢を聞かせてください。

まだ手の届かない夢なんですが、ブラジルで、親のいない子どもたちや生活ができない子どもたちのための施設をつくりたいと思っています。子どもたちを助け、勉強させて、自分たちの生活のための畑をつくったり、学校やカポエイラを教える場所をつくるなど、いろんなことをしてみたい。日本とブラジルを往復しながら、そういうことができたらいいなと思っています。日本に来てお金を稼いで、ブラジルに行って施設を運営できればいいですね。

最後に、滋賀県の人にメッセージをお願いします。

よく見ると琵琶湖にものを捨てて人が結構多いですね。水口あたりでも、自然がなくなってきたように思います。だから自然を守るということをみんなでやりたいなあとと思います。ブラジルでも自然を守らなければいけません。車で移動することが多いので、できれば次に車を買うときはエコカーで、と思っています。

それから、無駄遣いが気になりますね。特に子どもたちは、学校にも行けるし、何でも揃っているのに満足していないというのが不思議です。ぼくたちは、学校でノートをとるときもできるだけ小さな字で書いて、たくさん使えるようにしていました。日本では何もかもちゃんとあるのに、それを大事にしないのが気になります。

また、お年寄りとか、体の不自由な人に対してもっと何かしてあげてほしいと思います。ブラジルでは、日本のイメージはお年寄りを大事にするというイメージが強いんです。でも、日本に来てみたらそのイメージと全然違うのが残念でした。お年寄りが子どもたちに大事にされていない、ということを感じます。家族の関係がうまくいかないのはなぜだろうという感じですね。ブラジルもお年寄りの扱いが良くないという一面もあるんですが、家族ができるだけ一緒にいるということは大事だと思います。

片山さんのカポエイラ教室

彦根市、近江八幡市、竜王町、三重県鈴鹿市で開催。▶連絡先：090-7435-5412

●カポエイラとは...ピリンバウという弦楽器のリズムに合わせて手拍子をする人達の輪(ホーダ)の中で、2人組で蹴りやパンチを使った組み手(ジョーゴ)をする踊りとも、格闘技とも見えるブラジルのスポーツ。技の鍛錬だけでなく、肉体と精神を鍛えることを目的とする武道とも言える。

滋賀県に来られたきっかけは？

高校を卒業して、働くために来ました。先に来ていた叔父を頼って来たんです。今は家族みんなが来ています。ただ、家族といっても血の繋がっていない兄弟もいます。ブラジルでは貧しい人が多くて、病院で子どもを産んでもそのまま逃げてしまう人もいました。母はそういう子どもを見つけると、病院の先生に「引き取ってもいいですか？」と聞いて家に連れて帰ってきたんです。だから、黒人の子や金髪の女の子も兄弟姉妹なんですよ。私の家も生活は苦しかったのですが、母は親のない子を見ると放っておけなかったんですね。

滋賀に来てからは10年間、ずっと同じ工場で働いていました。私は日系二世なのですが、両親は仕事で忙しくて家でゆっくり話すことも少なかった。だから日本語は「おはよう」「こんにちば」ぐらいしか分からなくて、最初は苦労しました。

日本に来る前は、東京のイメージしかなかったので、滋賀県に来てみて、ブラジルで私が住んでいた所とあまり変わらないのがうれしかったです。ブラジルで住んでいたのも田舎で、歩いて10分くらいの所には川があって、よくそこで遊びました。

カポエイラを始めたきっかけは？

ブラジルで暮らしていた時から知ってはいたのですが、興味を持ったのは日本に来てからなんです。ブラジルのテレビ番組を録画したビデオで見て自分もやってみようと思い、ブラジルにいた頃に見た道場の様子を思い出しながら一人で練習を始めました。その後、運転免許を取るためにブラジルに一時帰国した時に、現地のカポエイラ学校で本格的に勉強したんです。そして、周りの友達が「覚えたい」と言ったので、知っていることを教えるという感じでみんなに教え始めました。

インストラクターの資格を取られたそうですね。

はい。ブラジルの先生にビデオテープを送って見てもらっていたのですが、昇段試験の